

令和元年度 第4回福祉のまちづくり推進審議会会議録

■日 時 令和2年1月30日（木） 午後1時55分～午後4時5分

■場 所 府中市役所 北庁舎3階 第3会議室

■出席者

<委 員>

工藤希一、齋藤慶子、七字藍子、中山圭三、永合美穂、生田目和美、原田まち子、増岡寛子、宮崎貞男、山下達也、横倉聡、和田光一（五十音順・敬称略）

<事務局>

地域福祉推進課長（渡邊）、地域福祉推進課長補佐兼福祉計画担当副主幹（中澤）、地域福祉推進課社会福祉係長（中村）、地域福祉推進課職員（更級、岡田）

<オブザーバー>

高齢者支援課長（山田）、高齢者支援課長補佐兼地域包括ケア推進係長（大木）、介護保険課長（坪井）、介護保険課兼介護保険制度担当主査（阿部）、障害者福祉課長（北村）、障害者福祉課長補佐兼生活係長（笹岡）、株式会社生活構造研究所（柏木、山田）

■欠席者 川口宣男、高橋史、野本和久（五十音順・敬称略）

■傍聴者 なし

■議 事 1 議題

(1) 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査（一般市民調査）の集計結果について

(2) その他

■資料

（事前送付資料）

資料1 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査概要について

資料2 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査結果分野横断の共通質問結果について

資料3 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査結果経年比較

資料4 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査結果クロス集計結果

（当日配布資料）

次第

1 開会

○事務局

本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻前ではございますが出席予定の方皆様お揃いになりましたのでただ今から令和元年度第4回「府中市福祉のまちづくり推進審議会」を開会いたします。

それでは、会長、よろしく願いいたします。

○会長

皆様こんにちは。

昨日今日とかなり暖かい日が続いていますが、体調には十分に気をつけていただきたいと思います。

それでは、第4回府中市福祉のまちづくり推進審議会を開催します。

どうぞよろしくお願い致します。

始めに、事務局から本日の出席状況について報告をお願いします。

○事務局

本日の会議は委員15名中12名のご出席をいただいております。したがって府中市福祉のまちづくり条例施行規則第18条に規定する定足数を満たしておりますので、有効に成立しております。なお、川口委員、高橋委員、野本委員につきましては、都合により欠席とのご連絡をいただいております。

本日も、後日の議事録作成をスムーズに行うため、本審議会の開催中は録音をさせていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。また、ご発言の際は挙手をしていただき、お名前をおっしゃってからお話しくださいますようお願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

では、続いて前回の会議録についてですが、事前に皆さんのところに会議録を送付していますが、事務局に修正等の話はございましたでしょうか。

○事務局

はい、会長。前回の審議会の会議録につきまして、委員の皆様にも事前の確認をお願いいたしまして、訂正や変更の必要はなしとご回答をいただいておりますので、発言者名を伏せるなどしたうえで、市政情報公開室、中央図書館、市ホームページで公開の手続きを進めてまいりたいと考えております。前回の審議会の会議録については以上でございます。

○会長

はい、ありがとうございます。

改めて委員の皆さん、修正が必要な事項はありますか。
ないようですので、事務局は公開の手続きを進めてください。
会議録の確認が終わりましたので、続いて、本日の傍聴について事務局よりお願いします。

○事務局

はい、会長。本日の審議会の傍聴についてご報告いたします。
本日の傍聴希望者はございませんでした。以上でございます。

○会長

本日は、傍聴希望はいないとのこと。続いて、事務局から配布資料の確認をお願いします。

○事務局

(※ 事前郵送資料及び配布資料確認)

2 議題

(1) 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査（一般市民調査）の集計結果について

○会長

それでは、本日の議題に入ります。

本日の議題は、「次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査（一般市民調査）の集計結果について」となります。

まずは、4つの資料がございますが、「資料1 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査概要について」及び「資料2 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査結果 分野横断の共通質問結果について」、「資料3 次期府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のために実施した調査結果 経年比較」について、事務局より説明をお願いしたいと思います。

○事務局

(資料1～3について説明)

○会長

はい、ありがとうございました。今、資料1から資料3までの説明がございました。何か確認事項はございます。今回の会議は資料を見ていただいて、その中から、皆さんがどう思うのか。あるいは、調査の結果から、次期計画においてこういうことをやったらどうなのかというようなことを、ぜひ皆さんに、確認をさせていただければと思っています。この後、クロス集計の報告もございます。とりあえず資料1から3までをやりまして、クロス集計の報告後、再度まとめて質問等をさせていただければと思っています。何かございますか。

○委員

資料2の2ページ「2 近隣で手助けできること」の高齢者分野の調査項目に、「ちょっとした買い物」というのがありますが、どの程度の買い物を想定されているのでしょうか。ちょっとした買い物というのは何を想定しているのか、何か判断材料というものはあるのでしょうか。

○会長

事務局、お願いします。

○事務局

特に、具体的にどこの程度までの買い物を指すといったことを調査票の中では説明しているわけではございません。日常のなかのちょっとした買い物は手伝いますといったニュアンスで、今回、確認をさせていただいているところでございます。

○会長

いいですか。

○委員

そうだと思いますが、ここはほとんどの方が、恐らくあまり責任を伴わない範囲でという趣旨なのだろうと、いろいろな設問を見ていると思います。なので、声掛けだったり、見守りというような、あまり責任を伴わないもの、電話連絡だったりといったものが、比較的、上位にきているのかなと思います。それ以外にごみ出しなどの家庭支援、電球交換などの簡単な作業というようなものがあつたと思います。それは、なぜごみ出しと家電の交換という文言を想定したのか、お聞かせください。

○会長

事務局、お願いします。

○高齢者支援課長補佐兼地域包括ケア推進係長

ごみ出しですとか、電球交換などの簡単な作業ということで、分けさせていただいて、生活支援のところでは分けさせていただいております。シルバー人材センターですとか、府中市社会福祉協議会さんの生活支援サービスの中で、具体的にこういったものがありますという形で、分けさせていただいております。以上です。

○委員

なぜこの項目だったのかということかというと、生活支援サービスにあるからということになるのですか。

○高齢者支援課長補佐兼地域包括ケア推進係長

おっしゃるとおりです。実際に地域のなかで、そうした生活支援の活動をやっているグループ等が、こういう支援ができるのかというところも考えまして、一緒にするよりは、こちらの方である程度、こういった具体的な分け方をしてございます。

○会長

よろしいですか。

その他、何かございますか。

では、私も一つ確認をさせていただきたいのですが、資料1の3ページ「障害等のある人の調査」の対象者に「④自立支援医療受給者」とありますが、これはどういった方ですか。身体、知的含めて、自立支援医療費に変わっていますので、具体的にどういう方たちか確認させてください。制度の狭間に置かれた人というかたちになりますか。

○障害者福祉課長補佐兼生活係長

確認いたしまして後ほどご回答いたします。

○会長

普通ですと、身体とか知的とかに分かれます。今までは療育医療とか、更生医療という制度でずっとやってきたわけですが、それを自立支援医療の一環に組みこんだわけですから、ここに出てくるのは、何だろうなと思ったわけです。後で結構ですのでお願いします。

その他、何かご意見ありますか。

○委員

近隣で手助けしてほしいというところの、災害時、避難の手助けの準備というところですが、手助けの準備とは、どの程度の準備なのか、どういう準備なのでしょう。

○会長

事務局、お願いします。

○障害者福祉課長補佐兼生活係長

はい、会長。例えば災害時に備え、リュックに防災用品をつめる等の、簡単にできる準備や日頃から避難場所・経路を近所で共有しておくことなどを想定しております。

○委員

障害者の方の手助けをするということですか。分かりました。

○会長

それでよろしいですか。

○委員

そうですね。分かりました。

○会長

その他、全体的に見まして、ここがかなり前回調査の結果と違っているのので、その辺についてもっと力を入れたらどうかというようなことなど、何かございますか。

○委員

資料3の7ページ「5 情報を入手する際、特に困っていること」という項目も選択肢に「視覚障害者や弱視者のための情報提供が不十分」とありますが、弱視という文言を一般的な人がどれだけご存じなのか、分からないことが多いのかなと思ったので、見づらい方への支援というような形にしたほうがいいのかなと改めて思いました。また、「6 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況」で10ページの「(10) 補助犬と同伴での入店が配慮された店・レストラン等」の整備状況をたずねる項目については、あまり実態をご存じない方たちが答えられているのかなと思います。今でも盲導犬を理由に1年以内に入店拒否をされた人が何十パーセントぐらいかいらっしゃいます。こういう状況があっても、この回答になっているので、あまりご存じない方が多いのかなという印象がありました。やはり、こういう個別のところは当事者にきちんと確認をしていかないと、なかなか反映されないのだろうというふうに、改めてこのアンケートを見て思いました。以上です。

○会長

ありがとうございます。

その他、何かございますか。

○委員

資料3の17ページ「12 福祉に関する考え方」を見ると、ここで前回調査よりも「そう思う」という回答者が共通して減っているのが、高齢者や児童、障害等のある方への虐待防止とかDVの防止、被害者の支援をするためにとか、ひとり親家庭の支援をするために「地域でのつながりが重要である」と思うかという設問です。設問は違うのですが、地域のつながりが重要であるについて、「そう思う」と回答した人が減っているところは気になります。やはりこれからは地域の活動が重要になってくるはずなのに、地域のつながりが重要であると思っている人が減っているのは気になります。

また、18ページの「13 地域の暮らしの満足度」に関して、地域との交流、自治会・町内会等の活動、サークルやボランティアの活動、相談できる体制について尋ねる設問は、「満足している」方が少ないというのも気になります。これは、先程の17ページの設問とつながっている部分なのではないかと思います。満足度が低い部分が改善されていくと、地域のつながりが重要であると考える人も増えていくのかなと思います。時代も変わっていますし、高齢者の方や、障害者の方の意識等も変わっている現状がありますから、こういったことも変えていきながら、考えていくのが重要で

はないかと思いました。

○会長

ありがとうございます。これについて、何かございますか。

○事務局

ご指摘ありがとうございます。委員のご意見のとおり、今回の調査で見えてきた部分としまして、資料3の1ページ「1 近所づきあいの現状」でも、地域でのつながりというのが、少し6年前より変化しているというところが見えてきています。今後の近所づきあい、地域の支え合いということが重要になっていくことは私どもも承知してしまして、次期計画でも、その点について十分見直して、盛りこんでまいりたいと思っています。

○会長

ありがとうございます。似たような点で、資料2の2ページ「近隣で手助けできること、地域で頼まれたらできること」を見ていただきたいと思います。地域福祉分野の市民一般調査の近隣で手助けできることは、日常の見守りや声かけが61.0パーセントとなっています。その下の高齢者分野の調査では、日ごろの安否確認が34.5パーセントで、14.5パーセントも乖離があります。これだけの乖離があるということは、やりたいのですが、そういう地域の支えも含めたシステムが、うまくできていないのではないだろうかという疑問が出てくるのが現状なのではないかということです。この審議会なども含めまして、地域の支え合いというか、そういうものをどうやってつくっていったらいいのかというのを提案できれば、一番、調査で出てきている意見を入れることができるのではないかと考えております。

○委員

今のご意見に関して、私も同様に感じておりまして、資料2の2ページ高齢者分野の調査の「近隣で手助けできること」では、約半数の46.4パーセントが無回答となっています。なぜ無回答なのかなと思ったときに、やはり手助けをやりたいけれども、できることが少ないというご意見なのではと思います。思いはあってもできないというところは、何かできる仕組みを作るところが、大切なかなと感じて見ておりました。以上です。

○会長

ありがとうございます。

その他、何かございますか。

それでは、とりあえずクロス集計の結果の説明をしていただいて、その後まとめて皆さんからご意見をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、事務局、資料4のクロス集計結果について、説明をお願いします。

○事務局

(資料4について説明)

○会長

ありがとうございました。これで、すべての資料について説明がございました。これについて、何かご質問、確認等ございますか。

○副会長

説明ありがとうございました今回のクロス集計の結果から、それぞれ地域であるとか、文化センター圏域であるとか、年齢層だとかで色々な特徴等が非常に見えてきたかなと思いますので、いくつか質問させてください。

最初に、資料4の40ページの「23 優先して取り組むべき福祉施策」について、「日ころから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が55.9パーセントで最も多かったと、先ほどご説明がありました。そうすると、次期地域福祉・福祉のまちづくり推進計画には、防災や防犯についてどの程度まで入れていくのでしょうか。

例えば防災ですと、福祉の領域では、福祉避難所をつくるであるとか、また、自然災害などがあると、医療の関係者、保健の関係者、福祉の関係者が出ていこうじゃないかといったことがあります。

また、防犯も地域で小中学校の登下校の見守りを行うとか、そういったことがあるかもしれません。「日ころから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」とは、どの範囲でどの程度のことを次期計画に入れていくことになるのでしょうか。現状については、事務局に確認ができるかと思いますが、とりあえず、どこら辺まで次期計画には入れ込むのでしょうか。

○会長

事務局、お願いします。

○事務局

今回の郵送による調査からも、防災・防犯に関する関心が高かったという点は見えてきています。また、この次期地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画とは別に、現在集計中ではございますが、次期福祉計画の策定のためにグループインタビュー及びグループディスカッションという形式で、市民の方等から直接、地域の課題や、その課題を解決するために地域でできること、相談の現状等を伺いました。その中でも防犯・防災に関する観点で、災害が起きたときの避難体制の関係ですとか、そういった不安を感じておられる方が多かったので、次期計画の策定においても、そういった市民の皆さまのご意見を福祉の観点から検討していきたいと考えております。

○会長

こういう形で、かなり、防犯・防災については関心が高い状況です。その辺について、先ほど副会長からもありましたが、我々が、この程度までやってほしいという要望も含めて提案できればと考えております。といいますのは、この調査のときに、偶然にも多摩川の増水とか、様々な災害があり

ました。その関係で、四谷とか、押立とか、是政近辺には避難命令が出ています。そういう状況を含めて、今までは震災とか、そういうものに力を入れてきたのですが、これからは、水害の方にも力を入れていただく必要がある。それでは、福祉の分野は、どういうことをやったらいいのかというのを、皆さんとともに確認をさせていただきます。福祉の分野では、先ほど副会長が言いましたように、福祉避難所というシステムを充実していくというのがあります。それと、もう一つは、1人で生活をしている方への声かけも含め、何かあったときの手助け、そういうものもどのようにシステム化していくのかということも課題だと思います。その辺も含めて、今後、運用していただければと思います。

そのほか、何かございますか。

○委員

資料4の4ページ「2 自治会・町会等に自治会に加入していない理由」のうち、「加入するきっかけがないから」が多いのですが、今回、そういう災害がございましたので、私は、南町なのですが、私どもの町会では、ハケ下の地域の方に対して、そういうことを一つのきっかけとして、加入を推進していくということやっています。また、「地域のイベントなどの活動が大変そうだから」というのもありますが、イベントに誘うとか、防災訓練に誘うとか、そういうことが、加入のきっかけになると思います。どうしても、災害が起こる場所というのは、近所づきあいが必要で一番大事だと思います。私は、住吉文化センター圏域になりまして、1,000所帯の規模の大きい自治会が3つあります。そうしますと、末端までなかなかいかないということが今ありまして、そういう意味で、ちょっと苦勞している面がありますが、そういうことを加味して、自治体加入をやっていきたいと思います。以上でございます。

○会長

ありがとうございます。この他、何かございますか。

○委員

よろしく申し上げます。何点かあるのですが、まず、事務局に基本的なことでお伺いしたい部分があります。

資料4の5ページ「3 近所づきあいの必要性」について、先ほど「必要だと思う」の中央文化センター圏域は29.7パーセント、押立文化センター圏域は61.7パーセントとご説明がありました。また、別の設問でも同様に「必要だと思う」という回答の数値のみを取りあげてご説明があったと思いますが、一般的には「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の2つを合わせて、おおよそ必要だと思うといったような表現をするのが一般的な調査における分析なのではないかと思って見ていました。そこをなぜ、「必要だと思う」の回答のみを取り上げての説明だったのか、本来であれば、押立文化センターの「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」という2つを足したものが、一番多いだとか、そういった分析をするのが、妥当な線なのではないかと思って、ここに関しては話を聞いていました。その辺りの見解を一つお伺いしたいのが1点です。

また、資料3の18ページ「13 地域の暮らしの満足度」について、前回調査の結果が19ペー

ジにあります。しかし、これは選択肢自体が今回と前回で違います。先程申し上げたように、今回の「満足している」と前回の「満足」のみを比べると今回の結果は減っているような意識を受けるかもしれませんが、私は今回増えた選択肢の「どちらかといえば満足している」も含めて、満足だというふうに、理解していますので、事務局の見解をご説明いただいたと思っています。前回調査とまったく同じ選択肢であるものであれば、そういった表現でも正しい分析かと思いますが、今回何か異なる分析をされたのかどうかと、我々委員の側として、単に満足だけを捉えて、これから政策の部分に関して、考えていかなければいけないのか、その辺の根本的な、事務局側も一つお聞かせいただきたい。

それとあともう1点は、お願いなのですが、居住歴といいますが、新しく転入されてきた住民の方々と、以前からいらっしゃる方々、この居住年数歴とのクロス集計が見当たらなかったものから、もったいないなと思いました。できれば、地域の暮らしの満足度あたりは、居住年数とクロスした結果があると、より鮮明に分析ができるのではないかと思います。できましたら、居住年数も効果的なクロスを出していただければ幸いです。以上です。

○会長

ありがとうございました。事務局、お願いいたします。

○事務局

会長、1点目の資料4の5ページ「3 近所づきあいの必要性」に関して、今回5段階評価で、質問、選択肢を設けまして、それ以外の設問の説明が3段階で、「どちらかといえば必要だと思う」、「必要だと思う」など、どちらかといえばということをお合わせた説明をしております、大変分かりにくかった部分があったと思います。大変おわび申し上げます。

なお、事務局の見解なのですが、委員のおっしゃるとおり、「どちらかといえば」、という選択肢も含める考え方もございます。説明が足りず申し訳ありませんでしたが、今回は文化センター圏域ごとの特徴も拾えたらと考え、「必要だと思う」の選択肢で如実に差が表れていると感じたものですから、「必要だと思う」のみで説明をさせていただきました。

また、資料3の18ページ「13 地域の暮らしの満足度」は、前回より選択肢が増えていますので、委員のおっしゃるとおり、一概に比較することができないということもありますが、「満足している」と「どちらかといえば満足している」のいわゆる「満足」側と、「どちらでもない」、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の「満足していない」側というように整理して比較しますと、確かにすべての設問において、前回より「どちらでもない」を選択した人と、「満足していない」側を選択した人の割合が減少していたり、「満足している」側を選択した割合が増加していたりするというものもございました。また、無回答の人も若干、減少しているというところもございます。

細かい説明になってしまいますが、資料3の18ページ「13 地域の暮らしの満足度」の、特に「(1) 近隣などとのつきあい」、「(2) 地域の交流」、「(5) 地域の防災対策」については、前回調査から「満足している」側の割合の増加が大きいものです。また、「(4) サークルやボランティアの活動」、「(5) 地域の防災対策」、「(7) 相談できる体制」は、前回調査では、「満足していない」の

割合が、「満足している」の割合を上回っていたのですが、今回の調査では、「満足している」側の割合が、「満足していない」側の割合を上回っています。いずれにしても、前回との比較が難しいものもありますが、我々も数字の見せ方は工夫していきたいと思っております。

また、クロス集計の関係ですが、こちらにつきましては、このたびお示ししたもののほかに、こういった情報が必要だ、ですとか、こういったクロス集計も必要だということであれば、可能なものは対応してまいりたいと考えておりますので、おっしゃっていただければと思います。またそういった資料を使って、課題や、次期計画の施策に反映させていければと考えております。以上です。

○会長

よろしいでしょうか。

その他、何かございますか。

○委員

資料3の9ページ「(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内表示」とありますが、「あまり整備されていない」という回答が、前は42.0パーセントで、今回は42.2パーセントと増えています。私は以前の審議会でも申し上げたのですが、とてもきれいになったのですけれど、府中駅の周辺がすごく不便になりました。歩く人に対して、すごく不便になったという声が多々、聞かれます。私もシニアクラブで20人の方に府中駅周辺にエレベーターがいくつあるかご存じですかと聞きました。今は、北側のところと、それからちゅうバスの停留所のところ、2つありますが、2つあるということを知っている人は20人中5人でした。私は以前の審議会でもエレベーターという看板の字が小さいので、もう少し、ここにエレベーターがあるという表示をできないかという質問をしたのですが、それはそのままになっています。もう少し、ここにエレベーターがありますという案内板というのをを出していただけたら、不便になったという声が少し減るのではないかという感じがしています。

それと、もう一つよろしいですか。資料4の17ページの間9からは年齢のクロス集計で75歳以上の年齢区分がありますが、その前の間では、大体が65歳以上で区分されています。どういう仕分け方をしたのか、調査内容によって、65歳以上と75歳以上に分けたのかお聞きしたいです。

○会長

ありがとうございます。事務局、2点お願いします。

○事務局

エレベーターの関係ですが、昨年度ご指摘をいただきました後、我々も実際に現地を確認しまして関係する部署にご指摘の内容と現状を伝えまして、ご指摘の部分については対応するというような話をいただいています。ただ、少し時間をいただきたいとのことでした。どこに貼るか、イメージは、お伝えはしてありますが、サインが多過ぎると、また見づらくなってしまいうような声もありますので、どの辺りに、どういうものを表示したらいいのか検討させてもらいたいとのことでしたので、しばらくすると対応ができるかなと思っています。

○委員

ありがとうございます。

○事務局

続きまして、2点目の年齢別の仕分けの部分の話なのですが、クロス集計をするにあたって、性別を踏まえた上で、性別と年齢をクロスした上で把握したほうが特徴の出るものと、それ以外で、性別があまり関わらないものとして、判断したわけではございますが、こちらにつきましては、年齢ごとに、日常生活の悩みや不安というものの集計を行ったところでございます。ですが、データとしましては両方ともございますので、男性、女性の性別を加味した上で、把握することもできますので、調査報告書の案を作成するにあたっては、いただいたご意見等を参考にさせていただきます。

○会長

高齢者福祉の分野から言いますと75歳以上は後期高齢者ですので、その辺の分析も必要なのかなと思います。

その他、何かございますか。

○副会長

個々の設問の回答やクロス集計の結果といくつかまとめると、次期計画に向けたキーワードが見えてきそうかなと思っております。資料4の40ページで、優先して取り組むべき福祉施策として「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が55.9パーセント、「相談支援体制や情報提供体制の充実」が40.7パーセントということで、やはり、そういうところも次期計画に入れてほしいというのが、今回、出てきたのだと思います。

「相談支援体制や情報提供体制の充実」について具体的に見ていくと、19ページの「12相談窓口の認知度、相談窓口を利用するにあたっての課題」だと、相談の窓口とは、「市役所の相談の窓口」、「地域包括支援センター」、「保健センター」、「子ども家庭支援センター」、「社会福祉協議会」、「市民活動センター」等が現状あるということです。今後も、ますます充実強化をしていくことが求められるかと思えます。

ただ、いろいろな窓口があると、「どの相談窓口に行けばいいかわからない」の回答が28.2パーセントありますので、やはり、窓口が細分化すると、どの相談窓口に行けばいいかわからないというのが、現実にご利用する方の問題になるのかと思えます。

そして、続いて21ページの「13相談したいと思う形態」を見ていただくと、「来所による相談」が多いということです。ただ、「メールによる相談」とか、「電話相談」という回答もありますので、今後は来所だけではなく、メールや電話等、そういったさまざまな相談の方法を検討していくことが必要かと思えます。

また、そもそも、どこに相談に行ったらいいかという情報に関しては、23ページ「15福祉サービスの情報の入手先」を見ていただくと、「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」という紙媒体を情報の入手先としてご利用されている方が大変多いということです。今後、紙媒体をどのように活用してくかというのは、大事だと思います。また、紙媒体以外に、「家族や知人」、「町

内の回覧板」、あるいは、「市のホームページ等のインターネットサイト」を利用しているという回答があります。この2、3年、大学の学生に対して、全国のいろいろな、少なくとも自分が住んでいるところの区や市のホームページを見なさいと、どんな情報があるか比較検討を行っています。自治体によっては手の込んだホームページがあって、児童から高齢者、障害者に関することまでいろいろなものが出てくることがあるので、紙媒体と同時に今後、やはりこういった電子媒体の活用というのは、とても大事かなと思います。23ページを見ると、やはり電子媒体は、若い方が利用して、年齢がだんだん高くなると電子媒体は利用せず、紙媒体の利用となります。やはり、まだまだ今後も紙媒体は必要性があるのかと、これから福祉のまちづくりを推進していくのですが、推進していくことも含めて、紙媒体で情報提供していかなければいけないと思いました。このように結果から次期計画に向けたキーワードがだんだん見えてきて、今は「情報」という言葉でつないだのですが、このようにキーワードを見ながら設問をつないでいくことができると個人的な印象を持ちました。

また、相談窓口がたくさん増えてくると、どこに行けばいいか分からないということがあります。今は、まずここに行きなさい、ここに相談来ていただくと、そこからいろいろつないでいくという、ワンストップサービスを行っている自治体もあります。このように、「情報」というキーワードでいろいろと見てきたら、そのようなことが分かってきたので、今後も、こういった形でキーワードを出しながら、たくさんのお問をまとめながら、文章化して行って、それをいかに次期計画に反映するかということも、検討しなければいけないといった感想も述べさせていただきました。

○会長

ありがとうございます。今、一番、課題になっていることが、この調査でも出てきているのかなと思います。事務局、何か今の意見に対してございますか。

○事務局

ご意見ありがとうございます。おっしゃるとおり、それぞれ調査の表を見ていくと、設問間でいろいろ見えてくるところもあると感じています。今後の審議会の中でも調査報告書の案を策定するとともに、計画策定にあたっての方向性ですとか、考え方といったところを次回以降、話がありますので、そういった、今いただいたご意見も参考に、そういった方向性について考えるにあたって、事務局からも提示させていただきたいと考えています。以上です。

○会長

ありがとうございました。

その他、何かございますか。

○委員

資料4の35ページ「(8) 買い物などの便利さ」で、《不満》は、14.0パーセントとなっています。資料3の19ページの前回調査では、16.0パーセントで、ここでは少し減っているの、一見安心材料だと思ってしまうのですが、生活者として、市の今の動きを見てみると、特に伊勢丹が空洞化してしまったということが、私自身の個人的な生活からいうと、食生活のレベルが大変

下がってしまって非常に辛いところがあります。知人や友人に聞きますと、皆さんも同じことをおっしゃいます。伊勢丹の跡地が、これからどのように変わっていくかということも含めて、全体の風土のようなことを考えていかなければいけないのだらうと思います。この14.0パーセントは、一体どのぐらいの年齢の方がおっしゃっていたのか、あるいは、男性、女性を分けて、どういう属性の方なのか分析すると、奥行きが見えてくる部分があるのではないのかなということを感じています。同様に、全体的なシステム、文化センター等の施設、あるいは機能及び制度も念頭に置きながら、調査を企画し、結果をまとめてこられたのだらうと思いますが、やはり、生活者としての実感みたいなものが、どこかからにじみ出てきてくれると、すごく読みやすくなってくるとは思いません。

○会長

ありがとうございます。事務局、考え方をお願いします。

○事務局

はい、会長。今、委員のほうからご意見いただきました地域の暮らしの満足度の中でも、買い物の便利さという点は、地域だけではなく、年代で把握することもできるのでご意見をいただきました。データはございますので、質問によって年齢を踏まえた上で、把握していったほうがいいもの、市全体で考える、地域で考える、そういった点で把握した方がいいもの、そういったことを踏まえながらデータを再度整理して、調査報告書案を提示していきたいと考えています。

○会長

よろしいでしょうか。ぜひ、この辺については年齢も含めて、クロス集計をして出していただくと、いわゆる買い物難民といわれるような方々も含めて、どういう現状なのかということが出てくるかと思しますので、ぜひお願いします。

○委員

すいません、一言付け加えます。伊勢丹では、ベンチに座っていらしたり、そこで昼間過ごしていた高齢の方たちが随分といらっしゃいました。その方たちが今どこでどうしていらっしゃるのだらうということを、つい思ってしまいます。たまたま、くるるやフォーリスで、お見かけすることがありますが、居場所を失ってはしないかなと思ってしまいます。文化センターや生涯学習センターなどは敷居が高くて、あまり自分の生活区域ではないと思っていらっしゃる方も多いのではないかなという気がします。そういうことも含めて、ご検討いただけたらいいかなと思います。

○会長

事務局、よろしいでしょうか。

○事務局

まさに伊勢丹の跡地というところにつきましては、中心市街地の空洞化ということで、市長が再

選された際の職員に向けての訓示のなかでも、課題を捉え、スピード感を持って臨むようにという話もありましたので、次期計画に、この辺りのことをどこまで、そのような形で反映できるかということは、現在ははっきりと申し上げられませんが、今お話しいただいた内容等も盛りこめるようなものを提案できればと考えています。

また、資料は改めてお示しいたしますが、先ほどの買い物の便利さについて、《不満》の年齢層は、14.0パーセントのうち、60歳から64歳の方が割と多くいらっしゃる状況であることを口頭ではございますが、ご報告いたします。

○会長

よろしいでしょうか。それでは、次の方をお願いします。

○委員

資料4の40ページに「優先して取り組むべき福祉施策」として「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」というのが最も多く選択され、特に第6地区で60.9パーセントと6割を超えて高くなっているという結果が出ています。それに関係する課題として、文化センターに情報があるということを伝えていくというのが大事なものは、すごく分かっているけれども、どうしても遠い現状にあります。福祉避難所を設けるのも大事ですが、やはり使われ方も大切だと思います。

昨年の台風19号の際、自分も避難しましたが、人があふれていて、施設に入れませんでした。施設が増えたら収容可能人数は増えますが、避難所に入るに当たってはいろいろな配慮が必要な方もいると思います。この地区の人はここの避難所に、というのも福祉的な意味合いを考慮すると、また厳しい問題も起きるのではないかと思います。恐らく今の段階で具体的にどうしていくという話は難しいと思いますが、先日の対策も含めて、いろいろ聞いてみたいというところがありました。以上です。

○会長

ありがとうございました。事務局、いかがでしょうか。

○高齢者支援課長

はい、会長。ご意見ありがとうございます。福祉避難所というお話がございましたが、例えば、前回の台風19号の対応から考えますと、皆さんが避難をしていただくというところの考え方につきましては、避難場所、避難所、福祉避難所ということで、さまざまなカテゴリーがあるということが、十分にまだ、市民の方々にいきわたっていないというところが、一つ課題であるのではないかと考えております。まず福祉避難所につきましては、一次避難所などでトリアージをし、福祉的な支援が必要というような方について、福祉避難所に移っていただくというような特性がございます。避難場所というのは、今回のように、大雨などで避難勧告などが出た場合に、一時的に避難をしていただくというところになりますし、避難所となりますと、またそこから、長期的な避難をしていただくための場所というところで、それぞれ役割が違うというところも、まだやはり十分に周知しきれていないというところが課題であるということを感じております。これにつきましては、福祉だけで

は、なかなか解決できることでもございませんので、防災危機管理課など、関係課と調整をしながら、より市民の方に、安心して暮らしていただけるような安全対策というものを練っていきたいと考えております。以上でございます。

○会長

ありがとうございました。よろしいですか。

○委員

資料4の35ページ「(9) 道路や交通機関等の使いやすさ」については、聞こえる人たちの意見だと思いますが、《満足》が68.2パーセントと出ています。しかし、聞こえない人の立場からすると68.2パーセントというのは無理です。ぶつかったり、いろいろ接触の事故があったりということがありますので、聞こえない人の立場でいうと、《満足》が68.2パーセントというのは、そこまではいってないかなというふうに思います。聞こえない人にとっては、《不満》のほうが多いのではないかなと感じます。

○会長

事務局、これは障害別にクロスしてあるのかどうか、その辺を確認させていただければと思います。

○事務局

この地域福祉分野の調査では、障害別での調査は行ってはおりません。障害の種別によってもちろん満足度に差が出てくるとは思っておりますので、今回の調査では、こういった結果が出ましたが、調査結果からは見えない部分について、これから次期計画を策定していく過程で委員さん等々からご意見をいただきながら、計画の中でそういった部分をうたっていければ、いい地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画になっていくのではないかと考えてございます。以上でございます。

○会長

よろしいでしょうか。いずれにしても先程もご意見がありましたが、資料3の9ページ「(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内標示」について、いろいろな形で対応してほしいということについては、ピクトグラムというシステムがありますので、ぜひ、その辺をうまく取り入れながら、対応をしていただければと思います。我々の審議会でも、ぜひピクトグラムを充実させてほしいというような意見も含めて、出していきたいと思います。

その他、何かございますか。

○委員

ピクトグラムなど、外国人の方も多く増えてきていると思いますので、そういった方にも分かりやすく、障害者の方、高齢者の方にも分かりやすいまちづくりができればいいなと思います。

また、先ほど、電子媒体、紙媒体というお話がありましたが、両方にいい点があると思います。紙媒体は持ち歩けたり、すぐ実物があるので、他の方に紹介もしやすかったりといったことがあると思います。電子媒体は、翻訳がしやすい、拡大するとすごく見やすいということも多く聞かれますのでこれからどんどん充実していただければと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。

その他、何かございますか。

○副会長

資料4の16ページ「9 活動の拠点としている施設」について、次期地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画においては、やはり文化センターが、府中市のなかで重要な拠点になっていくと感じています。図書館という回答もありましたが、私も福祉の人間ですから、あまり図書の詳しい話は分からないのですが、今後の計画では、文化センターと図書館の大事な拠点になっていくのかなということを感じました。

また、武蔵台文化センター圏域と中央文化センター圏域で回答に差があるという説明があったと思います。私は、市外の人間なので現場の様子が分からないのですが、実情をお聞かせいただければと思います。

○会長

事務局、お願いします。

○事務局

活動の拠点としている施設について、特に中心部とそれ以外の周辺の武蔵台文化センターのエリアと地域ごとにより差が出ているところがございます。そちらにつきましては、中心部ですと中央図書館、それからルミエール、そういったところの利用が女性も多くございます。また、「その他」には、フィットネスクラブですとか、地域の公会堂というご意見もありました。それぞれの地域で利用する施設が異なっているところがあると思います。文化センターを主に活動の拠点として利用している地域と、特に中心部では、それ以外の施設も利用しているというところが、今回の調査では見てとれたと考えております。

○会長

よろしいでしょうか。他にありますか。

○委員

図書館というのは、そこで新聞を広げたり、お昼寝していたり、そういう過ごし方をしている方もたくさんいらっしゃいます。例えば宮町図書館ですと、大國魂神社の境内にありますから、ちょっと寄って、そこで新聞を読んだりできますので、それで図書館と書いていらっしゃる方がい

ると思います。

○会長

ありがとうございました。

○障害者福祉課長補佐兼生活係長

はい、会長。先ほどご質問いただきました資料1の自立支援医療の受給者ということですが、区分でいいますと、精神障害に分類されます。精神保健福祉手帳を取得していらっしゃる方以外に、自立支援医療を使って精神科外来されている方を対象としております。精神分野に関して、幅広く意見を聞くために、今回、対象に加えたものでございます。以上になります。

○会長

ありがとうございました。手帳を取らないということですが、自立支援関係の方ということですが、

今までの意見を少し取りまとめていただいて、次回、インタビュー関係のものも出てくると思います。その辺も含めて、最後、確認をして、それより、まちづくりのシステムを作っていきたいと思っています。

(2) その他

○会長

それでは続いて、議題の2、その他について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

会長。それでは事務局から一点お伝えいたします。次回の審議会の開催日程でございますが、3月中旬頃に開催させていただきたいと思っております。改めて、予定調整の上、通知を差し上げたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○会長

よろしいでしょうか。

その他、何かございますか。

では、本日の議題はこれですべて終了となりましたので、これで、令和元年度の第4回府中市福祉のまちづくり推進審議会を終了させていただきます。お忙しいところ、どうもありがとうございました。

(以上)